

自治体名	福井県
------	-----

### 女性の健康づくり対策の概要

本県では、がん予防・治療日本一を掲げ、がん検診の受診率50%を目指し、さまざまな取組みを実施している。

女性のがんである乳がん検診においては、ショッピングセンター等で出前検診を実施し、子宮頸がん検診については、妊婦健診時に実施できるように受診体制の拡大を図ってきた。また、乳がんおよび子宮がん検診受診勧奨のDVDを作成して配布するなどの取組みも行っている。

また、平成16年に県内で初めて、県立病院に女性専門外来を開設するなど、女性外来窓口の増設に向けて関係機関等に働きかけを行っている。

さらに、食生活をはじめとする生活の改善を支援するため、子育て支援センターや保育園、幼稚園において保護者を対象に出前健康講座を実施し、健康教育を実施している。

### 自治体の特徴

福井県は、変化に富んだ海、山などの自然景観、由緒ある歴史や伝統、世界にはばたく特色ある地場産業など恵まれた魅力と可能性を秘めている。また、全国トップクラスを誇る長寿県でもあり、3世代世帯の割合が高く、女性の有業率や労働時間が全国上位であり、65歳以上の就業率も高く、働き者であるといえる。

県内には17市町があり、4医療圏、6つの健康福祉センターにおいて健康づくり施策に取り組んでいる。

### 人口構成 (H21.4.1 現在)

	総数	男	女	
人	809,414	391,443	417,971	(年齢不詳1,488人含む)
割合(%)	100	48.4	51.6	

15歳未満	116,167	59,665	56,502
15～64歳	493,346	247,972	245,374
65歳以上	198,413	82,660	115,753
75歳以上	104,451	39,000	65,451
85歳以上	29,013	7,533	21,480

### 女性に関する健康課題

平成18年度県民健康・栄養調査によれば、20歳代女性のやせの者は33.3%(平成6年比2.2倍増)であり、また朝食欠食率18.2%(平成6年比1.7倍増)で増加傾向にある。また30歳代女性については、運動習慣を有する者の割合が14.5%で各年代の中で最も低く、喫煙率は15.7%で最も高いことから、20～30歳代女性の健康課題は多いと考えられる。

一方、平成20年度市町における女性のがん検診の受診率は、乳がん検診18.0%、子宮がん検診18.1%と低く、受診率は伸び悩んでいる。

### 事業費 (千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	4,065
(2) 中高年期における健康支援事業	735
(3) 女性のがん支援事業	304
計	5,104

## (1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	20～30歳代女性における健康支援事業
分野	■健康教育      □健康手帳の交付      ■健康相談
事業費(千円)	4,065千円

## 事業目的

- ① 20～30歳代の女性における健康実態調査を実施し、若い女性における身体状況、栄養素等摂取量、健康意識等を明らかにし、若い女性における健康増進の総合的な推進を図るための基礎資料とする。
- ② 若年のやせている女性に、食生活に対する指導等を通じて介入を行うことで、増加傾向が見られる若年女性のやせを防止し、ひいては骨粗鬆症の予防や母子の健康確保を図る。

## 事業対象

民間企業(10社)に勤務する20～30歳代女性(計312人)

## 事業実施体制・展開

## ①健康実態調査および出前健康講座の実施

民間企業(10社)に勤務する20～30歳代女性(計312人)を対象に健康実態調査を実施し、結果説明会として出前健康講座を実施(271名参加)した。

- ・健康実態調査  
アンケート調査・身体測定・血液検査等・食事摂取状況調査
- ・出前健康講座

調査結果説明会として、調査対象者に対し、「やせ」の健康への悪影響や骨粗鬆症の危険性を認識させる健康教育を実施した。[福井県栄養士会へ委託]

## ②保健指導

やせである保健指導介入群23人を対象に、栄養相談を実施した。栄養相談では、カメラ付き携帯電話を活用した食事診断システムを利用し、1日の食事量についての評価を月3回程度行い、食事や生活に関する保健指導を約2ヶ月間実施した。[福井県栄養士会へ委託]

保健指導非介入群14人と比較検討し、保健指導の評価を行った。

## ③指導者研修会の開催(1回)

①および②の事業を適切に実施するため、管理栄養士等の指導者を対象に、「女性のやせ」についての研修会を実施した。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

## ①健康実態調査の結果

- ・2割はやせで、1割は肥満であった。・骨密度が低めの者が40.9%、体脂肪率が高い者は38.6%である。
- ・理想体重を理解しておらず、やせ願望が強い。(標準体重にもかかわらず78.2%がやせたいと思っている)
- ・ダイエット経験のある者は57.3%で、高校生時代のダイエットが41.6%と最も多い。
- ・脂質エネルギー比が高く、カルシウムや食物繊維が不足している。

## ②保健指導の結果【保健指導介入群(23人)、非介入群(14人)における指導後の評価】

- ・BMI18.5未満を回避できた者は3人(13.0%)であった。また、体重を現状維持した者は12人(52.2%)、体重が増加した者は8人(34.8%)、体重が減少した者は3人(13.0%)であった。
- ・生活習慣の改善については、保健指導介入群では改善目標とした生活改善を継続している者が69.6%に対し、非介入群では21.4%であり、積極的に継続して保健指導を行うことで、生活習慣の改善が継続できると考えられた。

## 事業の工夫点

- ①健康実態調査および出前健康講座では、企業の協力を得て実施したことで、事業所健診の血液検査データ等が活用でき、出前健康講座などの健康教育を就業時間内に実施できるなど参加者の確保が容易であった。
- ②保健指導では、カメラ付き携帯電話を使用した食事診断システムの構築により、栄養アセスメントを充実できたこと。また、体組成計を用い、体格指数のみならず体脂肪率等を活用して指導を行ったこと。

## 事業の効果についての評価・考察

- ①健康実態調査の結果から、やせ願望が強く、理想体重を理解していない者が多かったことから、理想体重の理解ややせの危険性に対する知識を若い女性等に啓蒙していくことが必要である。
- ②保健指導では、積極的支援として約2ヶ月しかできなかったが、生活改善を継続している者が69.6%いたことからやせに対する保健指導は、一定の指導効果があったと考えられた。よって、肥満だけでなくやせについても、積極的かつ継続した保健指導は効果があると思われた。

また、カメラ付き携帯電話を活用した食事評価は、エネルギー摂取量の把握に有効であり、やせの者の栄養アセスメントとして活用できると考えられた。

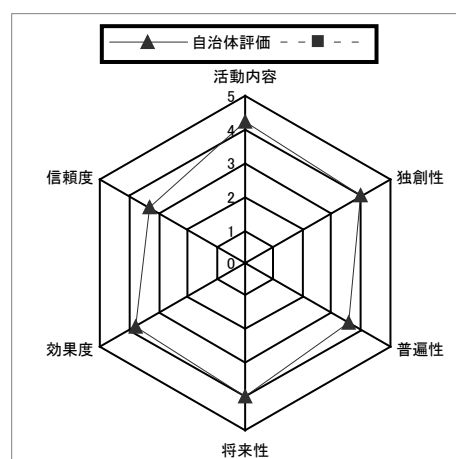
一方、BMI普通群にも体脂肪率が高めの者が42.6%いたことや、骨密度計や体組成計を用いて測定したことが75.7%の者が「健康管理にとっても参考になる」と回答したことから、体組成計などを用いて科学的なデータを示すことは、自分の身体状況を認識させ、行動変容を促すことに役立つと考えられた。

## 今後の課題

- ①思春期や若い女性に対し、理想体重の理解や正しい知識を普及するための健康教育や保健指導を充実していく必要がある。
- ②カメラ付き携帯電話を活用した食事診断では、やせや肥満者における食事量の過小や過大申告が少ないと考えられまた対象者の負担も少ないことから、今後はこの食事診断システムを活用した保健指導の充実を図る必要がある。

ホームページ	<a href="http://www.fukui-kenko.net/jyosei/">http://www.fukui-kenko.net/jyosei/</a>
照会先	福井県健康福祉部健康増進課健康長寿推進グループ TEL:0776-20-2350

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	若年女性の「やせ」にターゲットをおいたところに意義は大きい。
②独創性	4.0	カメラ付き携帯電話を活用した食事診断は、やせの者に対する栄養アセスメントとして活用できると考えられた。
③普遍性	3.6	企業を介してのアプローチが、効率的かつ集客力があると考えられた。
④将来性	4.0	「やせ」に対する調査研究や保健指導の継続が今後も必要である。
⑤効果度	3.8	保健指導期間が短く評価するには厳しいが、生活改善の継続率は高く、一定の成果はあったと考えられた。
⑥信頼度	3.3	保健指導期間が長ければ、保健指導効果の成果はどうだったのかとの疑問が残った。



## (2) 中高年期における健康支援事業

事業名	女性の健康支援サイト
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供
事業費（千円）	735千円

## 事業目的

中高年女性における健康の悩みや不安は、多種多様で個人差も大きく、ひとりで悩んでいる女性も多いことから、健康でイキイキとした生活が送れるよう健康情報の提供を図るため、インターネットによる健康情報の発信体制を整備し、正しい知識の普及啓発を図る。また、相談窓口の情報を提供することにより、支援体制の強化を図る。

## 事業対象

若い世代から中高年女性を中心とする一般県民

## 事業実施体制・展開

## (1) 情報発信体制の整備

更年期の悩みや女性の健康に関する正しい知識、および相談窓口の情報を、福井県ホームページ「ふくい健康広場」上に掲載した。[\(http://www.fukui-kenko.net/jyosei/\)](http://www.fukui-kenko.net/jyosei/)

## (2) 掲載している主な内容は下記の項目である。

## ①健康チェックをしてみよう

- ・あなたの理想体重はどのくらい？
- ・1日に必要なエネルギーはどのくらい？
- ・1日の身体活動量を診断してみよう
- ・ダイエット中のあなたは大丈夫？（摂食障害（ETA）チェック）
- ・更年期にあらわれる症状をチェックしてみよう      ・更年期に何が起こる？

## ②女性と病気      ・相談窓口の案内

## ③女性とたばこ      ・たばこクイズ

## ④やせの弊害      ・骨粗しょう症      ・貧血について

## ⑤健康な食生活      ・食事バランスガイド      ・野菜を食べよう      ・貧血を予防する食事

・食物繊維・鉄・カルシウムを多く含む食品      ・菓子類のエネルギー      ・ジュースの糖分

## ⑥女性のがん

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ・ サイトは、平成22年3月に完成したばかりであり評価するに至らないが、既存のサイトを拡充したことで、健康情報を一元化でき、ホームページが見やすくなった。
- ・ 関係機関のホームページとリンクしたことで、互いに情報を共有し、多くの情報を得ることができた。
- ・ 相談窓口の情報を一元的に提供することができ、わかりやすくなった。
- ・ 健康チェックをしてみようのコーナーで自己診断ができ、関連サイトへの情報に入りやすい構成となっている
- ・ 県民の健康実態などのデータをもっと盛り込むとさらに充実したものとなると思われた。

### 事業の工夫点

- ・健康チェックをしてみようのコーナーで自己診断ができるようにしたこと
- ・健康相談窓口を掲載したこと  
女性健康相談窓口、お薬相談窓口の案内、  
医療情報ネット、市町相談窓口、医師会、栄養士会等へのリンク

### 事業の効果についての評価・考察

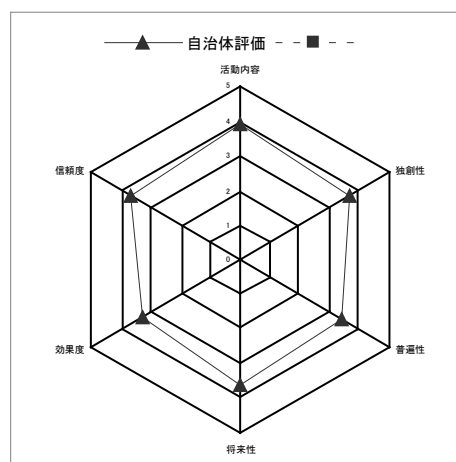
- ・従来からあった当課の健康増進に関するサイト「ふくい健康広場」を拡充したことで、相互に活用を図ることができ、また利用者の広がりにも期待できる。
- ・関係機関のホームページにリンクすることで、互いに情報を共有し、多くの情報を得ることができ、また互いの波及効果も期待できる。

### 今後の課題

- ・中高年女性をはじめ幅広い層の方々に、サイトを活用してもらえるよう普及啓発を行うこと。
- ・アクセス件数による活用状況等を踏まえ、掲載内容の検討や充実を図ること。

ホームページ	<a href="http://www.fukui-kenko.net/jyosei/">http://www.fukui-kenko.net/jyosei/</a>
照会先	福井県健康福祉部健康増進課健康長寿推進グループ TEL:0776-20-2350

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.9	県民が手軽に健康情報を得ることができることに意義はある。
②独創性	3.6	県民の健康状態の実態などを盛り込むとよかった。健康チェックリストがあり、サイトに入りやすい。
③普遍性	3.4	
④将来性	3.6	アクセス数の増加を図るとともに、掲載内容を検討し、工夫していくことが必要である。
⑤効果度	3.3	
⑥信頼度	3.6	県からの情報発信であり、信頼性は高いと考えられる。



## (3) 女性のがん健康支援事業

事業名	がん撲滅フォーラム		
分野	■啓発活動	□健康教育	□健康相談
事業費(千円)	304千円		

## 事業目的

本県では、がん検診受診率50%を目標に掲げ、がん予防対策に取り組んでいる。そこで、県内で最もがん検診受診率が低い市において、がん撲滅フォーラムを開催し、市民等へのがん検診に対する意識啓発を行うことで、女性のがんに対する啓発も行う。

## 事業対象

一般県民

## 事業実施体制・展開

〔実施主体〕 当該市

〔共 催〕 健診機関・郡市医師会・NPO法人・福井県

〔内 容〕

- ・講演Ⅰ「もっと知りたい大腸がんの予防と大腸がん検診」
- ・講演Ⅱ「もっと知りたい大腸がんの治療」
- ・特別講演「がんと共存して」(鳥越俊太郎氏)
- ・パネルディスカッション「テーマ：大腸がんから身を守るために」  
パネリスト4名、コーディネーター1名
- ・女性のがんに関するパネルを展示し、クイズラリーを行った。
- ・当日の参加者に、大腸がん検診のキットを手渡し、大腸がん検診の受診機会を設けた。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ・フォーラム参加者数：218名 ・大腸がん検診申込者：27名 ・クイズラリー参加者：87名
- ・知名度の高い講師を招いたことで集客は容易であった。
- ・当該市におけるがん検診受診率は下記のとおりで、平成21年度(見込み)はすべて上昇した。
 

胃がん	：平成20年度	3.4%	⇒	平成21年度(見込み)	5.1%
肺がん	：平成20年度	6.2%	⇒	平成21年度(見込み)	9.8%
大腸がん	：平成20年度	6.5%	⇒	平成21年度(見込み)	10.2%
子宮がん	：平成20年度	12.6%	⇒	平成21年度(見込み)	21.2%
乳がん	：平成20年度	17.3%	⇒	平成21年度(見込み)	21.1%
- ・当該市のがん対策に対する意識が向上し、次年度予算もアップした。
- ・大きなイベントを実施し、マスメディア等を活用して広報することで、がん検診受診の啓発活動につながった。

### 事業の工夫点

- ・がん検診受診率が最も低い市でフォーラムを実施したこと。
- ・関係団体と協働開催し、特別講演に知名度の高い鳥越俊太郎氏を招いて、集客を図ったこと。
- ・当日、その場で大腸がん検診の申込ができるようにしたこと。

### 事業の効果についての評価・考察

- ・当該市と県等が協働開催することで、当該市のがん対策に対する意識が向上し、次年度のがん対策の予算がアップした。
- ・大腸がんに関する講演会ではあったが、女性のがんである乳がんや子宮がん等のパネル展やクイズラリーを実施したことで、女性のがんの検診受診率の向上にもつながったのではないかと考えられた。

### 今後の課題

- ・フォーラムなどの健康教育の場に、住民が参加したくなるような工夫が必要である。

ホームページ	<a href="http://www.fukui-kenko.net/jyosei/cancer.html">http://www.fukui-kenko.net/jyosei/cancer.html</a>
照会先	福井県健康福祉部健康増進課健康長寿推進グループ TEL:0776-20-2350

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.9	がん検診受診率の低い市で開催したところに意義がある。
②独創性	3.4	
③普遍性	3.1	
④将来性	3.6	今後もこのような企画等を通じて、受診率向上のための啓発活動が重要である。
⑤効果度	3.8	がん検診受診率の向上に寄与したと考えられる。
⑥信頼度	3.9	

